

イスラエル、ベングリオン大学での長期滞在

物理学専攻 D2 山本 薫 (羽田野研)

イスラエルのベングリオン大学の Amnon Aharony(名誉)教授と Ora Entin-Wohlman(名誉)教授のもとで、3ヶ月間、量子熱電素子の効率に関する理論の研究をするための長期滞在をした。滞在先のホストである両教授とは、もともと滞在前から共同研究を行っていたが、滞在中はより濃密な議論を行うことができた。また、ベングリオン大学の物理学科は実力のあるナノ物性研究者が集結しており、そのような環境での先生方や学生との交流は非常に有用であった。

イスラエルというと危険な印象を持っている人がいるかもしれないが、実際に行ってみると、至って平和であった。ほとんどの場面で英語が通じ、治安も日本並みに良かったことをここに付記しておく。また、イスラエルの若者は皆フレンドリーであり、名前も知らない通りすがりの彼らに助けってもらったことも多かった。

最後になってしまったが、海外派遣を支援してくださった指導教官の羽田野先生、ALPS 事務局の方々、滞在先で親身に指導していただいた両教授、滞在先での部屋のアサインをしていただいた Doron Cohen 教授、指導教官は違うものの、同室で暖かく迎え入れてくれた大学院生の Dekel, Daniel, Geva, その他関わってくださった全ての人に感謝したい。

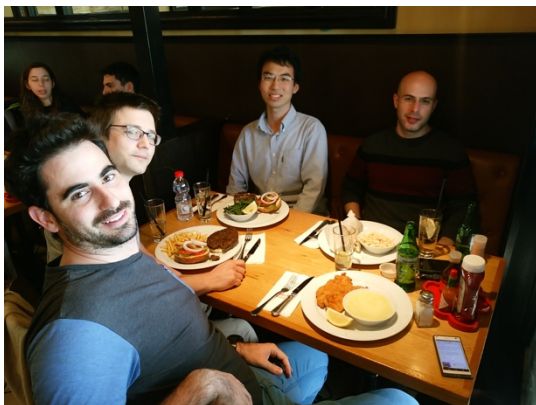


図 1 同じオフィスのみんなど。右奥から反時計回りに Geva, 筆者, Dekel, Daniel。



図 2 研究室グループの皆さんと。左列の奥から Aharony 教授、筆者、ポストクの Debashree。右列の奥から Entin-Wohlman 教授、Debashree の旦那さん(彼はグループの一員ではない)。